

教育現場の進化と 子供たちの成長を願って



徳島県立総合教育センター 学校経営支援課
高校教育課程担当 指導主事

渡邊 聡 わたなべ さとし



「教諭時代は生徒とふれあえる自分に合った仕事だ」と思っていました。今は直接ではありませんが、先生を通じて子供たちを見ながら、良い先生や良い教材づくりをしています。若い先生方に、自分がやってきたこと、やり残したことなどを

「教諭時代は生徒とふれあえる自分に合った仕事だ」と思っていました。今は直接ではありませんが、先生を通じて子供たちを見ながら、良い先生や良い教材づくりをしています。若い先生方に、自分がやってきたこと、やり残したことなどを

卒業してから徳島交響楽団に入り、今では同楽団のジュニアオーケストラの指導にも当たっています。『好きな仕事なので苦痛にはなりません。音楽は気分転換になります』

「いろいろな引き出しを用意して、アンテナを張り巡らせて、整理して入れておけば、必ず役に立ちます」

徳島県立総合教育センターは2004年設置され、徳島県の教育の充実を図るために、教育関係職員の研修や教育に関する専門的、技術的事項の調査研究及び指導助言、情報教育の推進、教育相談、生涯学習の振興等を行い、次代を担う人づくりを推進するとともに、県民の生涯学習の振興に寄与することを目的として事業を行っています。(同センターのホームページを参照)

伝えて、またその先生に教えられた子供たちが力を付けて、社会に出て行ってほしいと願っています。地元の大学を希望したこと、音楽が趣味でオーディオいじりが好きだったので、電気や機械に興味があつて工学部へ。音楽は聴くだけでなく、チェロを演奏します。大学の交響楽団に籍を置き、

「手が少し腫痛気味なのですが、なんとかがんばって出たいですね」授業や部活など学生時代に学んだこと、先生からのアドバイス、あるいは人との出会いなど何でも大事に持っておけば、それがいつか役に立つ、というのが渡邊さんからのメッセージです。

略歴
1960 徳島生まれ
1986 工学部電子工学科 卒業
2005 鳴門工業高校や東工業高校、教育委員会を経て同センター就任
同センターのホームページ
<http://www.tokushima-ec.ed.jp/>



吉野の流れのように

お茶の水女子大学 大学院
人間文化創生科学研究科 研究院 准教授

森 義仁 もり よしひと



習をしたものだ。そこには悠々たる流れがあった。ゆったりとした時間だった。それは、徳島の街全体にも流れていたように思う。そのことは、物事について考えたり

行き上、教員がなるべく直接対応する時間を作らなくてはいけない。その留学生たちと話す時間が多くなり、感じたことがある。そこには、かつて徳島時代のゆった

最近、アフガニスタンの他にもイスラムの国と関係ができるようになり、エジプトはその一つ。以前、わたしの研究室にエジプト人M氏が6ヶ月滞在した。昨年、彼女の大学に2回滞在した。中東の女王エジプト、ナイルデルタの地方都市、マンソウラである。写真は職員専用野外レストランでのゆったりとした昼食だ。中央に立つ女性がM氏、右隣は私。食事と、本当にいろいろな話をしていたようだ。そして宿舎の窓から見える悠々たるナイルにわたしは吉野を重ねた。

あれから30年が立ち、社会も大きく変わり、ゆったりと何かをする雰囲気も希少なものとなった。しかし変わらないこともある。考えもせず、自身の能力も省みず、事を始めてしまふ性格だけは変わらないようだ。職場のアフガニスタン高等教育女性支援事業で、大学女性教員が留学生として毎年1名来ることなり、この支援担当教員になってしまった。この事業を始める時、「教員が責任を持って密着対応します」、「それはすばらしい我が国への支援だ」は、両大学幹部による会話。その留学生はある意味で特別な存在である。他の学生に留学生への対応をお願いすることもできるが、成り行き上、教員がなるべく直接対応する時間を作らなくてはならない。その留学生たちと話す時間が多くなり、感じたことがある。そこには、かつて徳島時代のゆった

りと人と話す時間に近い感触である。とにかく会話することが好きな方たちだ、わたしもできる限り付き合う。用件だけを要領よく話しをすることが望まれるこの時代に貴重な時間なのかもしれない。中東や中央アジアの国々はこの数年急速に発展してきている。しかし、彼の地は、まだまだ「物より人」が主役であるということかと、わたしは勝手に推論した。徳島大学にも多くの留学生が来ていることである。建物もすいぶん新しくなったと聞くが、人間関係を形成するにおいてゆったりとした時間を与えてくれる雰囲気はまだ残っているなら、留学生にとって幸せなことである。

略歴
1983年 徳島大学薬学部卒業、
1985年 徳島大学大学院薬学研究所修士修了、
1988年 北海道大学大学院薬学研究所博士修了、薬学博士。富山医科薬科大学附属病院薬剤師、岡崎国立共同研究機構分子科学研究所助手、名古屋工業大学工学部助手を経て1998年よりお茶の水女子大学に勤務。理学部で化学を教え、同グローバル協力センターで途上国支援に関わる。